

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

一人ひとりの生徒を大切に、豊かな人間性と確かな学力、課題解決能力を育み、地域との連携を推進しながら、地域で活躍するリーダーを輩出する学校

1. **確かな学力と課題解決能力**（基礎的な知識や技能を習得し、それらを活用して自ら考え実践を通じて深く学び、表現する力）を育む学校
2. **豊かな人間性**（自分だけでなく他人の大切さを認め、互いに助け合い、よりよい社会を創っていく責任感と規範意識を持ち、自律して社会を支える力）を育成する学校
3. **地域連携**（地域とともに、「学び」、「歩み」、地域に貢献し、地域から信頼される）を推進する学校
4. **次世代リーダー**（チャレンジ精神とリーダーシップ力を持ち、自主的・積極的に学校での諸活動やボランティア活動などの体験に取り組む）を育成する学校

## 2 中期的目標

## 1 「確かな学力」と「学び」への主体性の育成

(1) 新たな大学入試制度に対応するとともに、次期学習指導要領を見据えた教育課程の編成と授業の充実を図る。

ア 主体的で対話的な深い学びの実現をめざす。

イ 習熟度別授業、少人数授業の効果的な運用を図る。

ウ 専門コースの授業内容の点検改善を図り、新学習指導要領への円滑な実施をめざす。

※授業アンケート（2回）の学校平均 3.20（R1年度 3.17 H30年度 3.18 H29年度 3.18）をめざす。

## 2 知・徳・体の調和のとれた教育をとおり、豊かな人間性をはぐくむ

(1) 規範意識醸成のため、あいさつ運動やマナー向上の全校的取組みを推進する。

ア 家庭との連携のもと、全教員での遅刻指導に取り組む。

イ 生徒会などと連携した朝の「おはよう」運動と日常の学校生活における挨拶を奨励する。

ウ 「心の教育」を充実させ、ルール、マナーの遵守を求めていく。

(2) 生徒一人ひとりが安心して安全な学校づくりをめざす

ア 教育相談体制を充実させるとともに、教職員と家庭が緊密な連携、情報共有を行う。

(3) 豊かな人間性の形成に寄与する人権教育を展開する。

ア 身近な事柄を通して、生命の尊さへの気づきや思いやりの心など豊かな人間性を身に付けさせる。

※学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合 80%以上（R1年度 76.2% H30年度 84.9% H29年度 83.2%）、「相談できる先生がいる」生徒の割合 65%以上（R1年度 59.4% H30年度 62.2%（質問新設））、「人権について学ぶ機会がある」生徒の割合 75%以上（R1年度 69.4% H30年度 74.7% H29年度 71.2%）をめざす。

## 3 「志」や「夢」をはぐくみ、自己実現の達成を図る

(1) 進路目標設定から進路実現まで3年間を見据えたキャリア教育を展開する。

ア 生徒の進路実現に向けた進路指導體制を構築して、講習・補習などの手厚い学力支援体制を確立するとともに、キャリア教育の一環として漢字検定、英語検定、パソコン検定等に生徒がチャレンジすることを一層促進する。

イ 近隣大学（四天王寺大学・関西福祉科学大学等）や関係機関等との連携を通して、生徒が進路意識を高め、進路実現のための学習や体験ができる機会を確保する。

※進路未決定者を3%未満（R1年度 4.0% H30年度 3.4% H29年度 8.3%）に減少させる。

## 4 地域と連携した魅力のある学校づくり

(1) 地域、学校教育活動に関連した関係諸機関との連携を学校の教職員・生徒があらゆる場面で充実させていく。

ア 広報活動を強化し、本校の魅力を広く周知するよう努める。

イ PTA や NPO 等と連携し、地域の福祉活動・環境保全活動に取り組む。

ウ 地域の外部人材や施設を活用し、体験的な授業や講座を開催する。

※学校教育自己診断における「大学の先生をはじめとして外部の先生から授業を受けたり話を聞く機会がある。」生徒の割合 75%以上（R1年度 70.6%）をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]   | 学校運営協議会からの意見  |
|---|---|
| <p>【学習指導等】<br/>授業の充実に関しては、「(ICTを活用するなど) 教え方を工夫し、わかりやすい授業をめざしている先生が多い」(生徒対象) <b>81.5%</b> (昨年 <b>79.6%</b>)、「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」(生徒対象) <b>72.0%</b> (昨年 <b>66.3%</b>)と教員は授業改善に取り組んでいる。「授業は、わかりやすい」(生徒対象)の肯定的意見が <b>71.2%</b> (昨年 <b>69.1%</b>)と生徒の意欲の向上にもつながっている。また、「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」(生徒対象) <b>79.5%</b>、「本校の進路指導のシステムは信頼できる」(保護者対象) <b>80.5%</b>など、進路実現に向けたきめ細かな指導・取組みが信頼を得ている。</p> <p>【生徒指導等】<br/>「学校生活について先生の指導に納得できる」<b>65.3%</b> (昨年 <b>63.1%</b>)。また「この学校に入学してよかった」<b>75.0%</b> (昨年 <b>61.5%</b>)であり、学年進行とともに肯定的意見が増加している (<b>11期生 59.8%</b> (1年次) → <b>66.4%</b> (2年次)・<b>10期生 55.2%</b> (2年次) → <b>73.9%</b> (3年次))。教育活動全般における生徒の満足度が上がっている。</p> | <p>第1回 (令和2年11月29日) :<br/>・基礎学力とともに、知徳体の調和のとれた人間であることは非常に重要であり、それらを目指すことは適切である。<br/>・新型コロナの影響で授業形態等の変化もあったが、悪い点だけではなく、今後の参考になるような点なども検討して欲しい。<br/>・時間を守ることは将来社会に出ても重要である。遅刻総数が増えているのが気になる。さらに時間を守る意識と態度を身につけさせるよう指導してほしい。</p> <p>第2回 (令和3年1月15日) :<br/>・学力保障とともにコロナの影響による家庭事情などの問題についても今後でもできる範囲で丁寧な対応してください。生徒に寄り添う必要が増えています。<br/>・長期休業の短縮や土曜日の授業実施などで授業日数を確保していることは適切である。毎朝の健康チェックや消毒用アルコールの設置などコロナ対策もおこなっている。今後も生徒が安心して生活できる環境を維持するよう努めてください。</p> <p>第3回 (令和3年3月3日)<br/>・学校教育自己診断での、学校に対する生徒の肯定的評価が高まっている要因について、さらに分析して、今後の学校経営に生かしてほしい。<br/>・コロナ禍で地域連携等も十分にできなかったが、生徒の多様な学びを保障するため、学習指導の工夫をしてほしい。<br/>・学校の特色づくりをさらにすすめてほしい。</p> |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                              | 今年度の重点目標   | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標   | 自己評価   |
|------------------------------------|--|---|--|--|
| 1<br>「確かな学力」と「学び」への主体性の育成          | <p>(1) 基礎的な学力の定着と主体的対話的な深い学びをめざした授業改善の取組みを推進する。</p> <p>ア 授業などの学習指導方法の工夫と改善を進める</p> | <p>ア 教師の指導力の向上を図る<br/>企画会議、授業改善委員会、サービスマネジメント委員会 (SL委員会) が中心となり①から④に組織的に取り組む</p> <p>① 授業改善<br/>年間2回の授業公開、全教科による研究授業の実施などにより、自らが積極的に授業改善に取り組む組織を構築する<br/>※授業アンケートの実施とその分析及び課題解決</p> <p>② 校内教職員研修の充実<br/>※ICT活用研修<br/>※経験の少ない教員に対する研修<br/>・経験の豊かな教員、指導教諭による個別研修・進路指導研修</p> <p>③ 専門コースの充実<br/>・専門コース科目の実践<br/>・外部機関と連携した保育実習<br/>・高大連携授業や外部講師の活用等<br/>※専門コース科目「サービスマネジメント基礎・実践」など、専門コースの科目編成、内容の点検・改善</p> <p>④ 働き方改革の促進<br/>※授業のICT活用とともに、校務のICT化をはかる。</p> | <p>ア</p> <p>①授業アンケートによる肯定的評価<br/>学校平均 <b>83%</b>以上<br/>(R1年度は、2回平均 <b>81.4%</b>)<br/>・学校教育自己診断「先生は、他の先生の授業を見学に来る」生徒の割合今年度以上 (R1年度 <b>50.5%</b>)<br/>・学校教育自己診断「授業はわかりやすい」生徒の割合 <b>75%</b>以上 (R1年度 <b>69.1%</b>)</p> <p>②校内研修の実施回数の達成度 (R1年度は7回実施、上回ることが目標)</p> <p>③学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」生徒の割合今年度以上 (R1年度 <b>66.3%</b>)</p> <p>④ICT活用率の向上<br/>学校教育自己診断「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」(R1年度 <b>79.6%</b>)<br/>・ICT活用率の向上 (R2年度学校教育自己診断の項目を一部修正して、検証・分析する)</p> | <p>ア</p> <p>・授業アンケート結果をもとに、独自の分析資料を作成。「わかる授業の実現」の評価については、昨年度同じレベル。引き続き、取組みを継続する必要がある。<br/>授業アンケートによる授業満足度 2回平均 <b>81.3%</b> (△)</p> <p>学校教育自己診断<br/>「先生は、他の先生の授業を見学に来る」<b>51.6%</b> (○)<br/>「授業がわかりやすい」全体 <b>71.2%</b>、また授業でのICTの活用も進んだ (○)</p> <p>人権研修、進路指導研修等7回。コロナ禍で実施が困難であったが昨年と同程度に実施できた (○)</p> <p>学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」は、<b>72.0%</b> (◎)</p> <p>「ICTを活用し、わかりやすい授業をめざしている」<b>81.5%</b> (○)</p> <p>・コロナ禍でもあり項目について見直さなかったため、評価できない (-)</p> |
| 2<br>知・徳・体の調和のとれた教育をとおし豊かな人間性をはぐくむ | <p>(1) 豊かな人間性の涵養</p> <p>ア 生徒一人ひとりに生き方あり方を探求させ、豊かな心と規範意識を醸成させる</p>                  | <p>ア 規範意識の醸成</p> <p>① あいさつ励行</p> <p>② 個に応じた遅刻指導、身だしなみ指導<br/>※毎朝の「おはよう運動」、年3回のあいさつ週間 (各1週間) を実施。<br/>※遅刻生徒については、放課後の指導など、生徒指導部を中心に、組織的に指導する。</p> <p>③ 教育相談体制の充実<br/>※隔週に教育相談委員会を開催し、生徒情報の共有化に努める。さらに学年団会議や職員会議等で全教員が情報を共有する。</p> <p>④ あらゆる教育活動の場において、人権感覚を育成する。特に「いじめへの対応」の学校信頼度を上げるとともに、「人権尊重の大切さについて学ぶ」機会を増やす。</p>   | <p>ア</p> <p>①学校教育自己診断における「挨拶をする」生徒の割合の向上 (R1年度 <b>76.2%</b>)</p> <p>②生徒の年間遅刻総数減らす (R1年度 <b>2500</b>)</p> <p>③学校教育自己診断における「相談できる先生がいる」生徒の割合の向上 (R1年度 <b>59.4%</b>)</p> <p>④学校教育自己診断で「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合の向上 (R2年度 <b>76.6%</b>)</p>  | <p>ア</p> <p>・学校教育自己診断「挨拶を励行している」生徒は <b>76.7%</b> (○)。登校時の様子を見ても自然に挨拶のできる生徒が増えている。<br/>・年間遅刻総数 <b>2900</b> (△)<br/>「時間を守る」ことについては、目標達成には至らなかった。ただし1年生は昨年と比べ非常に少なかった。全体として昨年からも増加傾向であったが、指導のあり方についてさらに検討していく。</p> <p>「相談できる先生がいる」<b>60.0%</b> (○)<br/>教員のカウンセリングマインドのさらなる醸成が課題。</p> <p>・「人の生き方・命の大切さ・社会のルールを学ぶ機会がある」生徒の割合 <b>76.6%</b> (○)</p>   |

## 府立懐風館高等学校

|                                 |   |  |   |   |
|---------------------------------|---|--|---|---|
| 3<br>「志」や「夢」を<br>自己実現の達成を<br>図る | <p>(1) 3年間を見据えたキャリア教育の推進</p> <p>ア 自己(進路)実現に向けた進路指導の充実</p>   | <p>ア 生徒の進路意識の高揚や、自己(進路)実現の達成</p> <p>① 効果的な進路関係行事の実施計画<br/>※進路体験行事、懐風館セミナー(大学等の出前講義)等の実施</p> <p>② 補習や進学講習などの機会を充実させる<br/>※教育産業とも連携しながら、生徒の希望進路の実現に向けた意識を高める</p>   | <p>ア</p> <p>① 学校教育自己診断で「進路についての情報提供がされている」生徒の割合の向上。(R1年度 80.6%)</p> <p>② 学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合の向上 (R1年度 28.5%)</p>  | <p>ア</p> <p>学校教育自己診断「進路についての情報提供がされている」(生徒対象) 79.5%、コロナ禍により実施困難な中、内容の見直しにより大学等見学会も実施できた(○)。「将来の進路や生き方について考える機会がある」 85.3%</p> <p>学校教育自己診断で「放課後や早朝の補習や講習に参加している」生徒の割合 37%(○)</p>  |
| 4<br>地域と連携した魅力のある学校づくり          | <p>(1) 地域密着型高校として広報活動と学校の魅力の発信</p> <p>ア 中学校訪問、学校説明会等広報活動のさらなる充実</p> <p>(2) 地域と連携した取り組みの推進</p> <p>ア 外部機関と連携した教育活動の推進</p> | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門コースの設置や学校の様々な取り組みを、中学生や保護者に周知する</li> <li>※スライド DVD、WEB を活用して、広報活動の充実をはかる</li> <li>※中学校訪問や学校説明会(部活動体験・授業体験・学校体験等)を充実させる</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携して、福祉ボランティア体験活動を実施する</li> </ul> | <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問回数や説明会等への参加者数を維持する。(R1年度中学校訪問 128回 R1年度説明会(本校実施)参加者数 370名)</li> <li>・HPの更新数を昨年以上とする。(R1年度HPの更新回数 82回)</li> </ul> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉ボランティア諸活動の参加生徒数前年度より上回る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校説明会(本校主催)参加者 259名、学校説明会3回(予定は4回)、体験入学1回、コロナ禍の影響で実施困難とされていたため(ー)</li> <li>・HP更新数 86回(○)</li> </ul> <p>・地域の福祉、ボランティア活動</p> <p>今年度も実施予定であった西浦支援学校との交流、高齢者施設訪問、いしかわ福祉フォーラム等の活動はコロナ禍の影響で実施困難とされ中止せざるを得なかった。(ー)</p> |